

令和5年度厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）
児童・思春期精神医療における多職種連携の推進マニュアル作成に関する研究
分担研究報告書

児童精神科診療所における多職種の業務の実態について
ー各職種へのインタビュー調査を介してー

研究分担者 奥野 正景 医療法人サヂカム会 三国丘こころのクリニック

研究要旨

増加する児童思春期の精神科医療ニーズの中で、児童精神科の診療所は一定の役割を果たしている。その中で、積極的に、児童精神科診療をおこなっている診療所では、精神保健福祉士や公認心理師などのコメディカルの配置が多い。そのような機関では、これらの多職種が実際にどのような業務を行っているかについて、診療所において各職種にインタビュー調査を行った。各機関では、児童、保護者、教育や福祉の連携機関に対して各職種が様々な業務に連携し従事していることが明らかとなった。

研究協力者

村嶋 隼人 医療法人サヂカム会 三国
丘こころのクリニック 三国丘病院

A. 研究目的

児童思春期の精神科診療のニーズは増加している。一方、専門の医療機関や専門家は不足している。過去の調査によると児童精神科の診療所は、病院と比し、精神保健福祉士や公認心理師などのコメディカル配置が少なく、業務における医師の負担が大きい。比較的コメディカルを多く配置している診療所で、初診への対応数が多い。そのような機関では、コメディカルがどのような業務に従事しているかを明らかにする。

B. 研究方法

日本児童精神科診療所連絡協議会が行った

調査（2022、未発表）をもとに、コメディカルの配置の多い5か所の診療所に協力を求め、対面で、医師、コメディカルに、初診予約、インターク、児への対応、保護者への対応、機関連携など業務内容ごとに各職種にインタビュー調査を行い、その結果は、KH Coder を用いテキストマイニングを行い分析した。

（倫理面への配慮）

本研究「児童・思春期精神医療における多職種連携の推進マニュアル作成に関する研究（23GC1013）」は国立研究開発法人国立国際医療研究センターにおいて、倫理審査を受けている。分担研究において収集される情報には個人情報含まれておらず、特定の企業団体との利益相反もない。

C. 研究結果

1 機関のみが常勤医師が2名、それ以外は1名の配置で、いずれも非常勤医師を配置していた。精神保健福祉士（以下 PSW）の常勤は兼務も含め全機関で、公認心理師（以下 CP）の常勤は4機関で配置し、非常勤のみの機関も常勤換算では1以上であった。看護師（以下 NS）の常勤は3機関、作業療法士（以下 OT）の常勤は1機関で配置していた。いずれの機関も、月に16歳未満の初診患者を10名以上診療していた。すべての機関で、予約を受け付ける時間を設定し、受付事務以外に PSW などが対応し、予約時点で、電話で PSW がインテークを行う、受診者が事前に詳細な問診票を WEB で記載するなどの工夫をしていた。児相や学校、他の医療機関などからの緊急対応が必要な例については、直接医師に電話で連絡するなどの別ルートを設け、別枠を確保し優先して診療を行っていた。インテークには、PSW、CP、NS がかわっていた。児童の個別対応には、医師以外に、CP、OT、PSW、NS などがかわり、CP は、カウンセリング、プレイセラピーなどに、OT は、障害児リハや訓練などに、NS、PSW は、精神科訪問看護指導にかかわっていた。各職種は、医師の指示箋などを受け、また職種間で、情報の共有、検討を行っていた。集団対応については、集団精神療法やデイケア、ショートケアにおいて CP、OT、PSW、NS が共同して行っていた。保護者の個別対応には、医師以外に、CP、PSW、NS がかわり、集団対応については、CP は、家族教室、心理教育、ペアトレなどに、PSW と NS は、心理教育やペアトレにかかわり、PSW は、保護者の依頼による他機関との調整なども行っていた。院内においては、医師を中心とし、受付

事務職員も含めた各職種が、業務に連携してあたり、カンファレンスなどで情報共有を行っていた。学校など他機関との連携では、PSW、CP が、ケース会議や症例検討などを通して行っていた。

D. 考察

診療所においても、コメディカルを配置することで、各職種で様々な業務分担を行うことができ、医師の業務のタスクシフトをおこない効率化していると同時に、治療上の様々なかわりを提供している。また、インターネットやソーシャルネットワークシステムの活用やカンファレンスを行うなど、院内の各職種や他機関との間での情報共有が様々な方法で行われている。

E. 結論

今回の調査の結果、児童精神科の診療所においても、精神保健福祉士や公認心理師などのコメディカルを多く配置することにより、児童、保護者、連携機関に対して各職種が様々な業務に従事し、連携して診断、治療にあたることができ、効率的な治療システムを構築することができることが示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

2023.11.14－16 第 63 回日本児童青年

精神医学会総会 2023.11.15 第 63 回日本
児童青年精神医学会総会 E-P-24 不登校
児を対象とした児童思春期精神科ショート
ケアの予後について～医療法人サヂカム会
三国丘こころのクリニックショートケア
“なごみ”参加者予後の後方視的検討～ 村
嶋隼人、岡田恵里、岩橋多加寿、奥野正景
3. その他

2023.5.26 ASCAPAP 2023、京都 座
長

Symposium 9 Towards an AI Agent
System Promoting the Computational
Development of

Social Emotional Skills for Individuals
with Autism Spectrum Disorder

Moderator 1: Masakage

2023. 6.14 令和 5 年度長崎大学病院地

域連携児童精神医学講座 ネット研修会 6
月講演 児童精神科診療所からかかりつけ
の先生方へのお願い

2023.11.15 第 63 回日本児童青年精神医
学会総会 シンポジウム3 最新のテクノロ
ジーを用いた発達障害支援の現状と今後の
課題 司会

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし